

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校(定時制)
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 資格等取得するためには、基礎学力も必要になってくる。授業等を通じて基礎学力の定着を図ってきたい。 問題行動の始まりは給食を食べないことなので、今後も喫食率の向上を目指す。また、食育講話を実施し、きちんとした食生活の習慣を身に付けさせたい。 今後も継続して各種講話を実施し、豊かな人間性を育成する教育を推進していく。
2 学校教育目標	<p>歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健康で逞しい工業技術者を育成する。</p> <p>校訓 「至誠剛健」(誠実で心身ともに逞しく)</p>
3 本年度の重点目標	<p>"ものづくり"から"人づくり"そして"未来づくり"</p> <p>ア 規律ある高校生活の定着 イ ものづくり教育の推進 ウ 開かれた学校づくりの推進</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○わかる授業の実践と学習意欲の向上	○普通教科における基礎的な学力の育成 ○学びの基礎診断における国・数の平均50点以上。	・学びの基礎診断を利用し、生徒の学力を把握するとともに個々の学力に応じた基礎的な内容や一般常識の学習を授業に取り入れる。	B	・学びの基礎診断を利用して基礎学習に取り組んだ結果、前後期合わせて国語平均66点・数学平均50点・国数平均58点であった。 数学については、更に学習が必要である。	B	・教科全般に対して、自ら進んで問題解決に取り組むのは少ない。自己解決(自主性)の下地を育成して欲しい。
	○資格取得への意欲向上と取得者数の増加を図る。	○各資格取得の広報をしっかり行い、計画を立てる。 ○各資格の合格率の目標設定	・始業前、課後の補習の時間を確保する。 ・生徒の理解度に合わせて個別指導を行う。	B	・始業前後の補習時間について必要な分の確保はできた。また、個別の指導もできている。 ・電気工事士、ボイラー技工共に100%合格。危険物試験は振るわず合格率20%となった。	B	・仕組みをつくり、流れをつくる。 ・定着してくれば、後は継続。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手を思いやる」や「命の尊さを再認識した」と考える生徒100%。	・「エイズ予防講話」、「性に関する指導講話」を全学年実施する。	B	・「性に関する指導講話」(外部講師)を全学年実施し、感想文から「異性や他者への思いやり」は前向きに捉えている生徒が多かった。	B	・多感な年頃で非常にデリケートな問題であるが、非常に大切な問題である。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進 ○いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する教育。	・アンケート調査ならびに担任による面談を年3回実施する。 ・全職員による認知と認知に関わる情報の共有を図る。	C	・アンケート調査ならびに担任による面談を実施し、いじめの早期発見・対応の体制を推進している。 ・いじめを認知する事案があれば、対策委員会後に、全職員への情報共有し、全職員で取り組む体制を推進している。	B	・いじめや誹謗中傷の問題は早期発見、動機解決の対応も大事であるが、日ごとのコミュニケーションを充実して欲しい。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。	・開校記念日に「高校生向け郷土学習映像資料」を使用し、幕末期の佐賀について学ぶ機会をつくる。 ・学友互いの史跡をめぐり、佐賀を知る機会をつくる。	B	・佐賀を知ることによって様々な取り組みを実施した。普段何気なく通りすぎている場所に様々な歴史があることを知る良い機会となった。 ・12月の佐賀を誇りに思う教育推進事業の講話では、教科書の視点とは違う点から見た佐賀の歴史を知る良い機会となった。	B	・本校は歩いて行ける距離に歴史遺産があるので、今後も歴史探訪という形で同様の取り組みを続けて欲しい。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○給食喫食率80%以上を目指す。 ○望ましい食習慣の定着を目指す。 ◎「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上。 ○感染症、食中毒等を防ぐための自己管理能力の育成。	・食育講話を実施。食に対する重要性を説き、喫食を促す。 ・給食アンケートを2回実施し反映する。 ・グリッターバグを使った手洗い指導の実施。	C	・給食喫食率は60%前半を推移している。遅刻する生徒が増えている現状がある。また、アルバイト先で食べてくなどで摂っていない生徒がいる。 ・給食アンケートでは食の大切さは理解しているがアンケートでは朝食を摂らない生徒が半数近くいる。 ・給食前の手洗いはよく出来ている。手洗い場にペーパータオルを設置した。	B	・偏った生活や不規則な生活リズムの影響もあるのではないかと。
	○教育相談の充実	○全職員で情報を共有し、SCとも連携し、組織的・機動的な体制をつくる。	・担任・副担任と教育相談担当やスクールカウンセラーとの連絡を密にし、職員が共通理解を図りながら指導・相談にあたる。 ・月1回の職員会議において職員が情報提供し、組織的教育相談の体制を確立する。	B	・級友とのトラブルで教室に入れない生徒、何らかの理由で登校出来ない生徒やその保護者等定期的にスクールカウンセラーにて相談を実施。また、気になる生徒へは相談を勧めている。 ・職員会議ではクラスの状態報告があり情報共有がなされている	B	・生徒同士が人間関係でトラブルになったときの、関係修復力が弱くなっている分、スクールカウンセラーの活用や教育相談の充実を図ってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教員委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 事務室と連携し、単独で前例踏襲ではない効率的な業務遂行を工夫	・始礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報共有をし、職員間のフォロー体制を強化する。	B	・各分掌の業務量に極端な偏りはなかった。また、業務記録状況からも、各職員の時間外勤務は毎月0時間の時間超過する職員もゼロであった。情報の共有は今後も継続が必要。	B	
	○職場(職員間)の雰囲気活性化	○職員が自己肯定感を高められるように、「承認」する考え方を広げる。	・声の掛け合い、お互いを承認し合う雰囲気づくりを行い、職員同士が組織的に活動しやすい環境を確立する。	B	・生徒の問題行動等に対する指導や教職員の業務間で起こる諸問題に対して共働するような声かけや雰囲気づくりはある程度確立できた。残る課題については、今後も継続が必要。	B	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○進路指導の充実 (独自評価項目・任意)	○進路希望の実現	○生徒・保護者にとって満足度の高い進路実現(進路決定100%) ○進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着。	・生徒の能力・適性・希望に合った進路先の情報提供と適切な指導助言に努める。 ・在学中の就業率向上と職業講話などを通して職業観・勤労観の育成と定着を図る。	C	・生徒の希望に沿った進路先の情報提供と指導助言に努めたが、進路先未定の生徒が残ってしまった。 ・職業講話や進路講話・就業調査は実施できたが、在学中の就業率向上には到らなかった。	B	・今年度はコロナ禍で厳しい状況もあったと思うが可能な限り生徒に支援を続けて欲しい。
○ものづくり教育推進	○資格取得(実技を伴う)	○資格取得 計算技術検定合格率80%以上 パソコン利用技術検定合格率70%以上 電気工事士合格率50%以上 危険物取扱者試験合格率40%以上	・補習の実施 ・遅れ気味の生徒への対応	B	・計算技術検定は合格率67%で目標値に達しなかった。 ・後期パソコン利用検定は合格率が68%、電気工事士100%、危険物取扱者合格率20%となった。	B	・工業高校が担うべき役割や育成して欲しい人材づくりに邁進して欲しい。期待をよせる。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育